

# つくしだより



平成28年12月号

東京つくし会主催♥家族リーダー研修会

家族会の役割が改めて明確に！

都連副会長 植松 和光

11月4日(金)午後1時から港区田町の都障害者福祉会館において家族リーダー研修会を開きました。当日のプログラムは一部は講演会で都連川崎副会長が講師になりテーマとして「家族会運営の課題―原点に立つ―」を話されました。

その中で、家族会組織が全国で初めてできたのが茨城県友部病院家族会と京都舞鶴保健所家族会であった。その後全国燎原の火のように各県に家族会ができていきました。そして今から50年前に家族会の全国組織が大変な苦労と努力の中で設立されたことが話され、私たちの大先輩が今の基盤を築いてくれたということをしみじみと感じました。

川崎副会長は家族会運営の基本は①会員数にこだわらない②会員同士の信頼が大事と話され、家族会の中でどれだけ、会員同士が本音を出すことが出来、少しでも心の重荷を解けることが大事です。そこに会員同士の信頼が生まれ、この会だったらこの人だったらこれからも仲間とし

付き合っていくことができるという、家族会運営がとても大事だと話してくれました。

次に話されたのが、先輩から学ぶ実践として、家族への訪問活動、手づくり料理を持参して楽しい例会作り、役員会の親睦の重要性、情報を共有するための会報づくり、父親会を作ったりして、父親の会への積極的参加、資金作りに積み立てを行い、会の財政基盤の強化を図る。など、とても大切なことだと強調していました。

最後に、川崎副会長は♥老いの青春を燃やそう!♥と参加者を激励しました。



二部では、8グループに分かれて次のようなことについて話し合い、その結果を各グループ毎に報告をしてもらいました。

更なる家族会活動の活発化を！

・会員・財源・役員・例会・お便り・要望活動・年間活動計画・他障害者団体との関係について、各グループでは活発な議論がすすみ、家族会には常に新しい会員を迎え活性化を図ること。役員は会長任せではなく、役員みんなで役割分担すること。家族会の財源は会費が主であるが、行政、社会福祉協議会、共同募金等の支援を積極的に受ける。会報は殆どの会が発行、更に内容の充実を図ること。多くの会で、市区町村に要望書を出し、活動しており、福祉手当支給の実現を果たしている会もある。年間活動計画では殆どの会で総会などで計画を議論し共有している。他の障害者団体との関係では、家族会が障団体等に加入しているところは半数程度であり、今後更に市区町村の中での共同した活動が必要である。との意見が出され改めて、家族会活動の大切さを認識しました。

## 第1回多摩ブロック会議の報告

都連理事 中住 孝典

さる10月29日(土)府中ふれあい会館において平成28年度の第1回多摩地域の家族会ブロック会議が行われました。参加数は15単会24名でした。まずは都連からの報告で①平成28年度評議員会・講演会②平成28年度対都要望活動③都連リーダー研修会④家族会実態調査⑤「東京つくし会」50周年記念行事⑥新ホームページ⑦その他として桜ヶ丘記念病院見学会などが報告されました。引き続き、協議事項としては①東京つくし会の会費減少問題②地域の他団体との連携③次回ブロック会議について意見交換等がなされました。東京つくし会の会費減少問題については各単会の運営状況や取り組みなどが報告され、今後の東京つくし会の安定運営に向けて参考になる活発で発展的な意見交換がなされたと思います。多くの地域家族会が抱える問題として高齢化とそれに伴う会員数の減少、若い層の家族の方々を家族会につなげる運営努力の重要性、地域家族会が会員の増加に向けた地道な啓発活動を行っていくことの必要性を改めて感じました。財政的に会費だけで運営している、公的な補助も受けている、資金集めのためバザーなどをやったことがあったが高齢化により難しくなってきたり、他団体との連携により事務所が共有され

節約につながったなど、どの家族会も大変な中やり繰りをしている現状も垣間見られました。地域家族会の運営状況を踏まえながら①東京つくし会が収入につながる啓発活動を考慮してもよいのではないか、コストカットはそのあとの問題。②免税措置のある寄付を受けられるように検討してみても③会員数が減ったとしても会費中心で運営を行うべき④他団体との連携も視野に入れ活動の活性化につながる必要性など、今後の活動に向けて示唆に富む意見が多く出されたように思いました。

## 第2回東ブロック会議の報告

都連理事 轡田 英夫

テーマ「家族会の活性化のために」

日時 平成28年11月5日10時～16時半

場所 足立区障がい者自立支援センター

参加団体・人数 12単会 24名

開催幹事単会 足立区4単会(ひだまり・オリーブ・つばさ・あしなみ会)

第一部 相談員養成講座 10時～12時半

事例検討と羽藤先生のコメント

事例一 病院の対応が悪いので転院したい。

コメント 病院には普通の病院と療養型病院があり、点数の問題もあります。家族会は病院学を学んだら良いのではないですか。

事例二 障がい者の弟の閉じこもりと多量の

買い物で対応に疲れ果てています。

コメント 訪問看護等の第三者の介入が必要。成年後見は効果的ではありません。

事例三 生活保護受給者で、喘息のため転居したいが福祉事務所が認めてくれません。

コメント 満足のいく結果を得ることは難しいでしょう。相談された人が逆恨みをされないよう気を付けて対応してください。

第二部 各単会の活動状況報告13時半～

事前に回答してもらった報告に基づいて各単会の活動状況を報告してもらい、全体をまとめると以下になりました。

① 組織的な活動 全て組織的に活動しています。

② 会員数の増加は ほとんど増加はしていません。減少気味のところもあります。

③ 役員のなり手がなく、固定化していません。そのようなことはありません。

④ 行政機関との付き合い 何らかの形で関わっています。

⑤ 会計について (1)会費は 5,000円前後が最多、高い所は9,000円

(2)区等からの補助金は 50,000円程度が多かったですが、最多は80万円

(3)収支は 若干赤字から若干黒字まであり、どこも苦しい状況のようです。



日本チャリティ協会 50周年記念式典に参加し  
都連会長 眞壁 博美

11月15日(火) 13時半〜15時まで、日本プレスセンタービル10階ホールで、「日本チャリティ協会」創立50周年記念式典が開催されました。会場は、約200名ほどの参加者でいっぱいになりました。

式典では、高木金次会長が、「日本チャリティ協会は、東京オリンピック・パラリンピックの2年後の昭和41年7月に設立されました。昭和42年2月新宿区市ヶ谷にささやかな事務所を構え、机2つに私ともう1人の職員2名という体制で業務を開始しました。」という歴史と共に「多くの方々に支えられて50年を迎えることができました。」と謝辞を述べられました。来賓として、東京都副知事・川澄俊文氏、厚生労働省社会援護局障害保健福祉部長・堀江裕氏が挨拶されました。次に記念表彰に移り、84名の個人と36団体が表彰されました。

記念コンサートでは、「宮城まり子とねむの木のこともち」と題し、11名のメンバーが舞台上に立ち、宮城まり子さんの指揮のもと、天使のような素晴らしい歌声を披露してくれました。「ハレルヤ」「さとうきび畑」等4曲を歌った後、アンコールに応え「アメージンググレイス」「ママにささげる歌」の2曲を歌ってくれました。宮城さんとこともちのやり取りが

信頼に満ちた温かいもので、大変心癒やされる時間を過ごせました。「やさしいことは強いんですよ!」が、こともちたちの合言葉になっているそうです。写真がたくさん掲載されているハードカバーの立派な記念誌をいただいできました。



11月18日(日) 午後、中野たんぼぼ会の「家族セミナー」

『地域で安心してくらすために家族の立場から支えあつてできることは』

都連理事 松原 のり子

30年にわたる統合失調症の長男との関係を話し、質疑応答に入りました。私の体験の要点と今後の課題は次の通りです。

① 医療につながるまで…中2のある日から。パッと学校に行かなくなつて自宅に引きこ

もり、そのうち暴力が始まり、本人一人を残して家族4人が引越したつらい体験。4か月後ようやく医療につながったものの不登校ではなく、統合失調症だった。その後入院を繰り返した。

② 家族会に入会して…同じ悩みを持つ人々と語り合い、病気について学び病気の手強さを知り、本人への家族の対応の仕方を学んだ。

③ 東京つくし会の理事になって…「親亡き後」の問題が家族に重くのしかかっているが、家族は自分が元気なうちから、本人が地域で一人で暮らせるように自立を促すことではないだろうか。そのためには、社会資源を充実させることが大きな課題であり、つくし会も頑張っている。しかし、質疑応答で出された隣家からの苦情、金銭トラブルなど具体的な個々の問題は、どうしたらいいのか、ほんとに難しい。みんなぞ知恵を絞って、支えあつて進む以外ない。

30人ほどお集まりの「中野たんぼぼ会」のみ皆さんの前で、つたない自分の体験を話したが、語りあい・学びあい・社会的運動という家族会の果たす役割の重要さを感じていただけたらどうか。



じんかれん五十周年記念大会に出席して

都連副会長 松沢 勝

神奈川県連の誕生が五十周年を迎えたことは、「全家連」結成の翌年に当たるので、県連の中でも伝統ある県連と言えます。

第一部式典の開会挨拶で、堤理事長のあと、黒岩県知事の挨拶がありました。そのなかで、19名の死者と27名の負傷者を出した県立「津久井やまゆり園」について言及され、「ともにいきるかながわ憲章」を改めて全文を読み上げられ断固とした決意を述べられた。

第二部の記念講演は系川昌成先生（東京都医学総合研究所）から「人はなぜ病を得るのか」神話が明かすDNAのこころ」と題して、大変興味深いお話がありました。

前回の当会評議員会の後の講演会より私共に更に判りやすくした内容と見受けられました。まず、今回初めて明らかにされた統合失調症を引き起こす物質カルボニル化合物を抑えるビタミンB6は日本では入手が難しいピリドキサミンであること。その第一相試験（平成20～21年度）及び第二相試験（平成22～23年度）を経て、現在興和株式会社と数百名規模の第三相試験を二〇一八～二〇一九年に予定している。正式な医薬申請は二〇一九～二〇二〇年になるとの明るい見通しを述べられた。

### 講演会のお知らせ

☆1/9(月) 家族への暴力は精神障がい者からのSOS

講師：大阪大学大学院医学研究科保健学専攻准教授 蔭山 正子氏  
場所：小平市中央公民館 ホール 主催：小平市けやきの会 ☎042-343-4559

☆1/14(土) マインドフルネス 座禅に学ぶ精神医療

会場：新宿区立障害者福祉センター 主催：新宿フレンズ ☎03-3987-9788  
講師：臨済宗・林香寺僧侶・精神科医 川野 泰周氏

☆1/18(水) 精神障がい者の就労について 場所：クリエイトホール6階(八王子市)

講師：東京障害者職業センター多摩支所 障害者職業カウンセラー 池島 宏史氏  
主催：わかくさ家族の会 ☎042-649-3460

※参加申込み・お問合せは、主催者までお願いします。

☆賛助会員(敬称略)

にしの木クリニック

こまごめ緑陰診療所

ありがとうございます。

5000円  
5000円



### 編集後記

私は世田谷区桜上水の「桜上水ガーデンズ」という新築マンションに1年前から住んでいます。もともとここは60年前までは、牛が草を食べ歩くのどかな牧場だったということでした。50年前そこに4階建ての低層マンションが400戸作られ、半世紀経て今回の14階建ての900戸近い大きなマンションに建て替えられました。私たちは20年にわたる建て替え運動と、4年間の仮住まいを経て昨年9月によく元の場所に戻ることができました。

戻った当初はよその家へ来たようで落ち着かなかったのですが、今はすっかり我が家としてなじみました。不満もいくつかありますが、都心に近くて緑が豊かなこと、地下駐車場で地上に車がないこと、免震構造なので地震に強いこと、床が厚く室内は上下の音が全く聞こえないことなどに満足しています。

近くの緑道の散歩の途中でどんぐりを拾い、真っ赤な落ち葉を押し花にして楽しんでいます。

そんな日々の暮らしを大切にしながら、地域の皆さんと仲良く楽しく暮らしたいものです。願わくば精神障害をもつ長男が長い入院生活を卒業して、なんとか幸せを感じながら地域で暮らせたらなと思っています。

都連理事 松原 のり子